

# 第188回 群馬県内企業経営動向調査 (ビジネス・サーベイ)

群馬経済研究所主任研究員 河村英輝

## ◆調査概要

### ～業況判断DIは、3期ぶりの「悪化」超～

- 2018年1～3月期の県内企業の業況判断DIは、△0.5と3期ぶりに「悪化」超に転じた。内訳項目をみると、生産・販売（売上・受注）DIが3期ぶりの「減少」超となったほか、原材料（仕入）価格DIは上昇した。このため、採算DIは△12.6と「悪化」超幅が拡大した。一方、人員判断DIでは、全業種が「不足」超となった。
- 業種別に業況判断DIをみると、窯業土石、輸送機器などが「悪化」超に転じたため、製造業は3期ぶりの「悪化」超となった。一方、非製造業は、卸売業が「悪化」超に転じたが、小売業で「好転」とする企業が増えたことにより、2期連続で「好転」超を維持した（22頁）。
- 経営上の問題点では、依然6割が「求人難」を指摘しており、特に輸送機器、小売業、食料品、金属製品などで回答割合が高かった（27頁）。
- 4～6月期の業況判断DIは「好転」超に転じる見通しである。

### 項目別DI推移

(数字の前の「△」はマイナスを意味する)

年・月期	業況判断	生産・販売 (売上・受注)	製商品 (販売) 価格	原材料 (仕入) 価格	採 算	設備投資	資金繰り	在庫水準	人員判断
15・10～12	6.7	6.6	△ 3.0	8.2	△ 1.2	△ 0.9	△ 1.3	△14.7	△27.3
16・1～3	△ 7.2	△10.6	△ 6.6	△ 0.2	△ 7.2	△ 4.3	△ 3.1	△14.8	△28.7
4～6	△ 7.5	△10.3	△ 4.6	3.6	△10.7	△ 5.8	0.0	△12.8	△16.1
7～9	1.6	△ 3.0	△ 2.4	2.0	△ 3.3	△ 3.4	1.5	△10.0	△24.2
10～12	6.0	6.7	0.0	13.3	△ 0.5	△ 1.6	1.7	△11.1	△30.2
17・1～3	△ 4.9	△ 5.6	△ 0.2	18.6	△10.2	△ 1.5	1.2	△10.7	△30.2
4～6	△ 0.6	△ 1.5	1.3	17.7	△ 7.7	△ 4.7	1.3	△13.8	△26.8
7～9	3.6	2.9	0.2	16.0	△ 4.7	4.0	2.1	△14.1	△30.9
10～12	5.9	5.2	1.7	25.6	△ 5.2	2.7	2.4	△12.8	△40.9
<b>18・1～3</b>	<b>△ 0.5</b>	<b>△ 3.0</b>	<b>4.5</b>	<b>30.5</b>	<b>△12.6</b>	<b>2.7</b>	<b>2.7</b>	<b>△ 8.9</b>	<b>△39.2</b>
(前 期 比)	(△ 6.4)	(△ 8.2)	(2.8)	(4.9)	(△ 7.4)	(0.0)	(0.3)	(3.9)	(1.7)
(前回予測比)	(△ 1.5)	(△ 2.8)	(2.8)	(12.8)	(△ 5.7)	(4.2)	(3.7)	(△ 2.1)	(3.2)
<b>18・4～6見通し</b>	<b>5.0</b>	<b>2.5</b>	<b>1.4</b>	<b>18.3</b>	<b>△ 6.1</b>	<b>△ 0.5</b>	<b>0.5</b>	<b>△ 4.3</b>	<b>△35.8</b>
(前 期 比)	(5.5)	(5.5)	(△ 3.1)	(△12.2)	(6.5)	(△ 3.2)	(△ 2.2)	(4.6)	(3.4)
D I	好転－悪化	増加－減少	上昇－低下	上昇－低下	好転－悪化	増加－減少	余裕－窮屈	不足－過剰	過剰－不足

◆調査要領

1. 調査の目的

群馬県内の景気動向と先行きを予測し、県内主要産業の実態を把握する。

2. 調査対象企業

群馬銀行の取引先を中心に1040社

回答社数435社（回答率41.8%）うち製造業194社 非製造業241社

3. 調査方法

記名式で当研究所の指定した項目について、その実績と見通しを記入するよう依頼した。

4. 調査時期

2018年1月下旬～3月上旬

5. 調査対象期間

2018年1～3月期実績、2018年4～6月期見通し（前期比）

◆回答状況

調査回答数

	会社数	構成比 (%)	うち 中小企業	地域別		
				中央部	東 部	その他
製 造 業	194	44.6	191	81	83	30
食 料 品	26	6.0	26	14	6	6
織 維	11	2.5	11	3	6	2
木 材 木 製 品	9	2.1	9	3	2	4
窯 業 土 石	14	3.2	14	7	3	4
電 気 機 器	19	4.4	19	6	11	2
輸 送 機 器	20	4.6	20	5	15	0
金 属 製 品	35	8.0	35	16	17	2
一 般 機 械	14	3.2	13	7	5	2
そ の 他	46	10.6	44	20	18	8
非 製 造 業	241	55.4	214	156	52	33
卸 売 業	58	13.3	53	44	8	6
小 売 業	36	8.3	25	27	7	2
建 設 業	65	14.9	63	39	13	13
サ ー ビ ス 業	82	18.9	73	46	24	12
合 計	435	100.0	405	237	135	63

注1：地域別  
中央部…前橋・高崎地域  
東 部…桐生・伊勢崎・太田・館林地域  
その他…上記以外の地域

注2：中小企業  
製造業……資本金3億円以下または  
従業員300人以下  
卸売業……資本金1億円以下または  
従業員100人以下  
小売業……資本金5千万円以下または  
従業員50人以下  
サービス業……資本金5千万円以下または  
従業員100人以下

注3：その他の製造業に含まれる業種  
パルプ・紙・紙加工品製造業  
印刷・同関連業  
化学工業  
石油製品・石炭製品製造業  
プラスチック製品製造業  
ゴム製品製造業  
その他、他に区分されない製造業

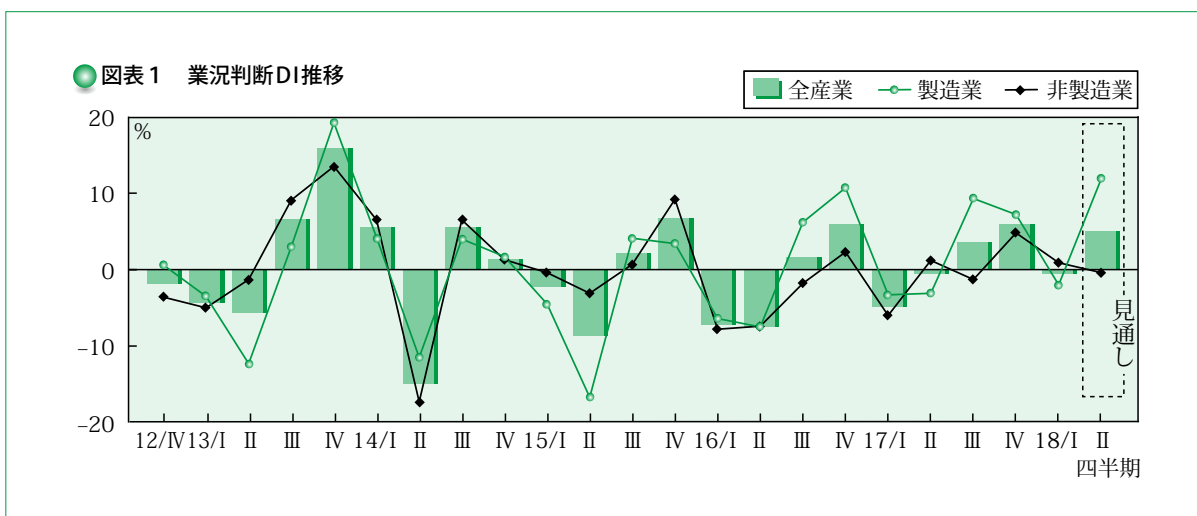
■本文中にあるDIについて

DIは、ディフュージョン・インデックス（Diffusion Index）の略。好転した企業の割合から悪化した企業の割合を差し引いたもので、企業経営者の景況判断をみる指標である。

例えば、回答した企業のうち30%の企業で生産が増加し、10%の企業が減少した場合、DI値は「30－10＝20」となる。DI値は、好不況等の浸透度を測るためのもので、量的大きさを測ることを直接の目的としていない。このため、DI値から生産が高水準であるのか、低水準であるのかの判断が困難な面もあるので、従来からの推移をみて増加傾向にあるのか、低下傾向にあるのかを判断する。

# 1. 自社業況判断

～3期ぶりの「悪化」超、見通しは「好転」超に転じる～



	17/Ⅳ 実績	18/Ⅰ(1-3月)		18/Ⅱ 見通し
		前回予測	実績	
好転	15.8	(11.8)	<b>14.1</b>	15.0
変わらず	74.3	(77.4)	<b>71.3</b>	75.0
悪化	9.9	(10.8)	<b>14.6</b>	10.0
全産業DI	5.9	(1.0)	<b>△0.5</b>	5.0

業種	17/Ⅳ 実績	18/Ⅰ(1-3月) 前回予測	18/Ⅰ(1-3月) 実績	18/Ⅱ 見通し
製造業DI	7.2	(3.1)	<b>△2.0</b>	11.9
食料品	25.0	(0.0)	<b>3.8</b>	23.1
繊維	△44.4	(△44.4)	<b>△36.3</b>	36.3
木材木製品	12.5	(0.0)	<b>△55.6</b>	22.2
窯業土石	0.0	(△16.7)	<b>△38.5</b>	0.0
電気機器	10.6	(15.8)	<b>15.8</b>	10.5
輸送機器	25.0	(△10.0)	<b>△10.0</b>	△5.0
金属製品	△5.1	(12.8)	<b>20.0</b>	17.1
一般機械	15.4	(7.7)	<b>14.3</b>	14.3
その他	7.8	(9.8)	<b>△2.1</b>	4.4
非製造業DI	4.8	(△0.9)	<b>0.9</b>	△0.4
卸売業	5.4	(△3.6)	<b>△1.7</b>	7.0
小売業	0.0	(2.9)	<b>5.6</b>	△5.6
建設業	3.6	(0.0)	<b>1.5</b>	△7.6
サービス	7.1	(△1.2)	<b>0.0</b>	2.5

## 【18年1～3月期】

### ○全産業

3期ぶりに「悪化」超となった。

### ○製造業

窯業土石および輸送機器などが「悪化」超に転じ、全体のDIは△2.0と3期ぶりの「悪化」超となった。

### ○非製造業

卸売業が「悪化」超となったが、小売業で「好転」が増え、全体のDIは0.9と2期連続で「好転」超を維持した。

## 【18年4～6月期(見通し)】

### ○全産業

業況判断DIは、5.0と「好転」超に転ずる。

### ○製造業

繊維と木材木製品などが「好転」超に転じる。

### ○非製造業

乗用車販売等を中心とした小売業と建設業が「悪化」超に転じる。

## 2. 項目別動向

### (1)生産・販売(売上・受注)

～3期ぶりの「減少」超～

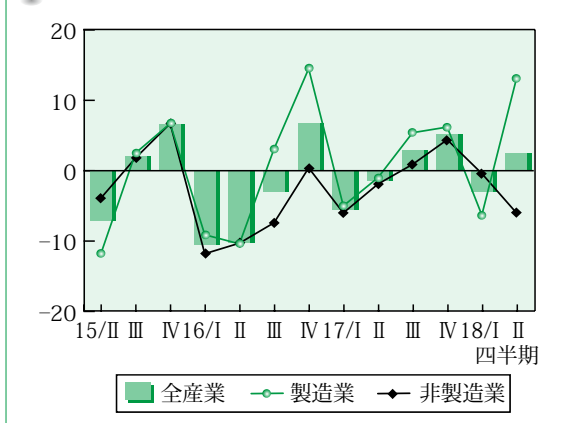
	17/Ⅳ 実績	18/Ⅰ(1-3月)		18/Ⅱ 見通し
		前回予測	実績	
増加	20.0	(14.6)	<b>17.1</b>	17.3
横ばい	65.2	(70.6)	<b>62.8</b>	67.9
減少	14.8	(14.8)	<b>20.1</b>	14.8
全産業DI	5.2	(△0.2)	<b>△3.0</b>	2.5
製造業DI	6.2	(3.1)	<b>△6.3</b>	13.1
食料品	33.3	(4.2)	<b>3.9</b>	30.8
繊維	△55.6	(△33.3)	<b>△27.2</b>	36.3
木材木製品	25.0	(0.0)	<b>△66.7</b>	33.3
窯業土石	8.3	(△16.7)	<b>△46.1</b>	7.7
電気機器	5.2	(21.0)	<b>26.3</b>	15.8
輸送機器	0.0	(△30.0)	<b>△10.0</b>	△20.0
金属製品	△2.6	(12.8)	<b>11.5</b>	11.4
一般機械	23.1	(23.1)	<b>0.0</b>	0.0
その他	5.8	(7.8)	<b>△10.9</b>	13.0
非製造業DI	4.4	(△3.1)	<b>△0.4</b>	△6.0
卸売業	3.7	(△5.5)	<b>△8.8</b>	3.5
小売業	0.0	(△2.9)	<b>5.5</b>	△13.9
建設業	3.5	(0.0)	<b>0.0</b>	△15.6
サービス	7.2	(△3.6)	<b>2.6</b>	△1.3

### (2)製商品(販売)価格

～「横ばい」が9割弱を占める～

	17/Ⅳ 実績	18/Ⅰ(1-3月)		18/Ⅱ 見通し
		前回予測	実績	
上昇	7.7	(6.5)	<b>9.0</b>	6.2
横ばい	86.3	(88.7)	<b>86.5</b>	89.0
低下	6.0	(4.8)	<b>4.5</b>	4.8
全産業DI	1.7	(1.7)	<b>4.5</b>	1.4
製造業DI	△5.7	(3.1)	<b>3.7</b>	0.0
食料品	4.3	(8.7)	<b>11.5</b>	0.0
繊維	0.0	(△11.1)	<b>△27.3</b>	△27.3
木材木製品	0.0	(△12.5)	<b>11.1</b>	11.1
窯業土石	0.0	(0.0)	<b>0.0</b>	0.0
電気機器	0.0	(0.0)	<b>5.3</b>	5.3
輸送機器	△15.0	(△10.0)	<b>0.0</b>	△10.0
金属製品	△12.8	(10.2)	<b>11.7</b>	14.7
一般機械	7.7	(7.7)	<b>△7.7</b>	△7.7
その他	△9.8	(5.9)	<b>4.4</b>	△2.2
非製造業DI	8.1	(0.4)	<b>5.2</b>	2.6
卸売業	16.4	(5.5)	<b>10.5</b>	1.8
小売業	14.7	(0.0)	<b>11.1</b>	△2.8
建設業	0.0	(△3.7)	<b>1.5</b>	△1.5
サービス	5.0	(0.0)	<b>1.3</b>	9.4

● 図表2-1 生産・販売(売上・受注)DI推移(18/Ⅱは見通し)



#### 【18年1～3月期】

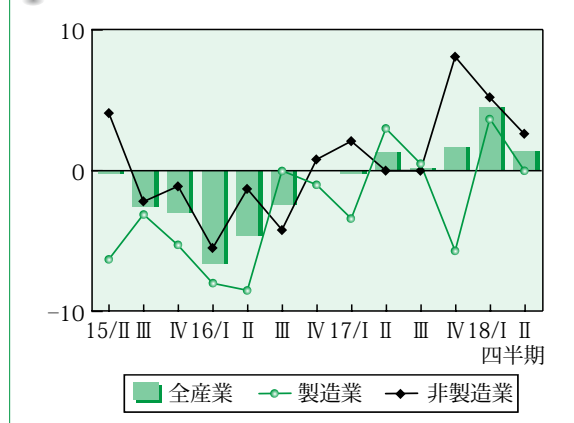
##### ○製造業

窯業土石や、住宅部材を中心とした木材木製品などが「減少」超に転じた。一方、電気機器で「増加」の動きがみられた。

##### ○非製造業

土木・建設資材などの卸売業が「減少」超に転じた。建設業では、「増加」と「減少」が均衡した。

● 図表2-2 製商品(販売)価格DI推移(18/Ⅱは見通し)



#### 【18年1～3月期】

##### ○製造業

原材料価格の上昇を背景に金属製品が「上昇」超に転じた。また、輸送機器では「低下」が減った。一方、繊維が「低下」超に転じた。

##### ○非製造業

卸売業で「上昇」が減った。

### (3)原材料（仕入）価格

～「上昇」超幅が拡大～

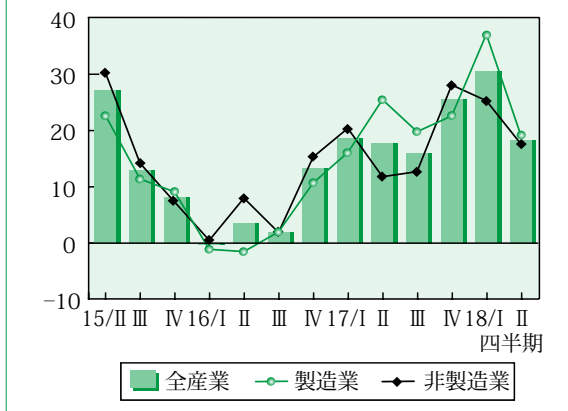
	17/Ⅳ 実績	18/Ⅰ(1-3月)		18/Ⅱ 見通し
		前回予測	実績	
上昇	28.2	(19.8)	<b>32.2</b>	20.4
横ばい	69.2	(78.1)	<b>66.1</b>	77.5
低下	2.6	(2.1)	<b>1.7</b>	2.1
全産業DI	25.6	(17.7)	<b>30.5</b>	18.3
製造業DI	22.6	(17.4)	<b>37.1</b>	19.1
食料品	8.4	(4.2)	<b>15.4</b>	7.7
繊維	33.3	(22.2)	<b>45.5</b>	27.3
木材木製品	75.0	(50.0)	<b>33.3</b>	22.2
窯業土石	△8.3	(△8.3)	<b>15.4</b>	15.4
電気機器	10.5	(21.1)	<b>33.3</b>	0.0
輸送機器	20.0	(15.0)	<b>45.0</b>	25.0
金属製品	48.7	(30.7)	<b>60.0</b>	37.1
一般機械	38.5	(23.1)	<b>41.7</b>	25.0
その他	7.8	(11.7)	<b>33.3</b>	13.4
非製造業DI	28.1	(17.8)	<b>25.3</b>	17.6
卸売業	33.3	(16.6)	<b>29.8</b>	22.8
小売業	32.4	(17.6)	<b>25.0</b>	8.3
建設業	21.4	(12.5)	<b>18.8</b>	17.2
サービス	27.5	(22.5)	<b>27.6</b>	18.4

### (4)採算

～「悪化」超幅が拡大～

	17/Ⅳ 実績	18/Ⅰ(1-3月)		18/Ⅱ 見通し
		前回予測	実績	
好転	10.9	(8.7)	<b>9.1</b>	9.3
変わらず	73.0	(75.7)	<b>69.2</b>	75.3
悪化	16.1	(15.6)	<b>21.7</b>	15.4
全産業DI	△5.2	(△6.9)	<b>△12.6</b>	△6.1
製造業DI	△5.7	(△3.1)	<b>△14.6</b>	△1.0
食料品	25.0	(△4.2)	<b>7.7</b>	15.4
繊維	△66.7	(△44.4)	<b>△54.5</b>	△9.1
木材木製品	△25.0	(0.0)	<b>△44.4</b>	△11.1
窯業土石	△8.3	(△8.4)	<b>△46.2</b>	0.0
電気機器	0.0	(0.0)	<b>5.3</b>	△5.2
輸送機器	5.0	(△15.0)	<b>△20.0</b>	△20.0
金属製品	△15.4	(△5.1)	<b>△5.7</b>	0.0
一般機械	15.4	(15.4)	<b>△7.7</b>	△7.7
その他	△9.8	(5.9)	<b>△17.4</b>	4.4
非製造業DI	△4.9	(△10.1)	<b>△11.0</b>	△10.1
卸売業	△5.5	(△12.8)	<b>△17.6</b>	△8.7
小売業	△8.8	(△8.8)	<b>△2.7</b>	△11.1
建設業	△7.1	(△8.9)	<b>△9.3</b>	△15.6
サービス	△1.2	(△9.7)	<b>△11.4</b>	△6.4

● 図表 2-3 原材料(仕入)価格DI推移(18/Ⅱは見通し)



#### 【18年1～3月期】

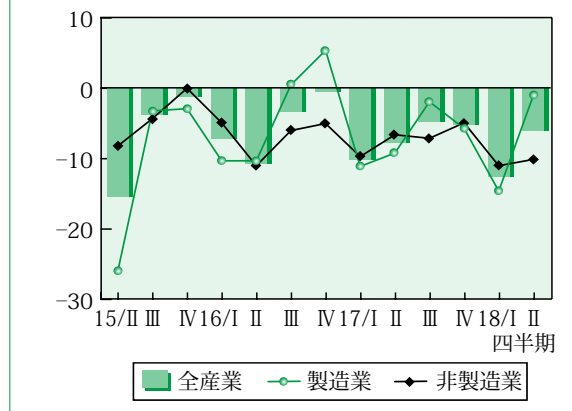
##### ○製造業

輸送機器やその他で「上昇」が増えた。金属製品は「低下」がなく、60.0と高水準。

##### ○非製造業

小売業や建設業で「上昇」がやや減った。

● 図表 2-4 採算DI推移(18/Ⅱは見通し)



#### 【18年1～3月期】

##### ○製造業

原材料価格の上昇を受け輸送機器や一般機械が「悪化」超に転じた。

##### ○非製造業

野菜や燃料費高騰を理由に旅館ホテルなどのサービス業の「悪化」超幅が拡大した。

**(5)設備投資**

～3期連続の「増加」超～

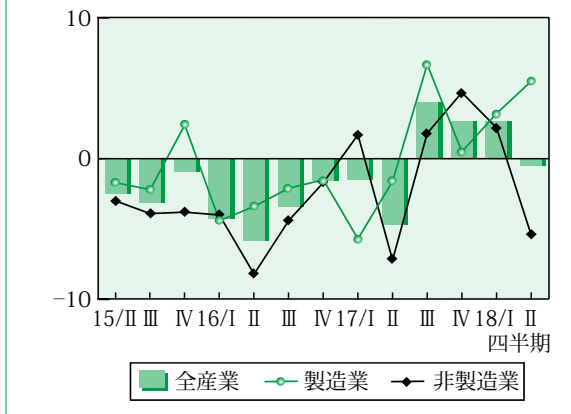
	17/Ⅳ 実績	18/Ⅰ(1-3月)		18/Ⅱ 見通し
		前回予測	実績	
増加	14.4	(9.4)	<b>13.8</b>	11.1
横ばい	73.9	(79.7)	<b>75.1</b>	77.3
減少	11.7	(10.9)	<b>11.1</b>	11.6
全産業DI	2.7	(△1.5)	<b>2.7</b>	△0.5
製造業DI	0.5	(△2.7)	<b>3.2</b>	5.5
食料品	8.3	(4.2)	<b>8.4</b>	12.5
繊維	△22.2	(△22.2)	<b>△27.3</b>	0.0
木材木製品	0.0	(△16.7)	<b>11.1</b>	0.0
窯業土石	△9.1	(△9.1)	<b>0.0</b>	0.0
電気機器	11.7	(0.0)	<b>△16.6</b>	△16.7
輸送機器	5.0	(△30.0)	<b>5.3</b>	5.2
金属製品	△5.1	(0.0)	<b>0.0</b>	6.1
一般機械	0.0	(7.7)	<b>7.7</b>	23.1
その他	2.0	(6.0)	<b>16.0</b>	9.1
非製造業DI	4.7	(△0.5)	<b>2.2</b>	△5.4
卸売業	1.9	(△5.8)	<b>△2.0</b>	△8.0
小売業	3.3	(3.2)	<b>5.8</b>	3.0
建設業	△3.7	(△5.6)	<b>△11.3</b>	△16.1
サービス	12.6	(5.1)	<b>14.5</b>	1.4

**(6)資金繰り**

～「普通」が4分の3を占める～

	17/Ⅳ 実績	18/Ⅰ(1-3月)		18/Ⅱ 見通し
		前回予測	実績	
余裕	12.3	(10.1)	<b>13.0</b>	11.0
普通	77.8	(78.8)	<b>76.7</b>	78.5
窮屈	9.9	(11.1)	<b>10.3</b>	10.5
全産業DI	2.4	(△1.0)	<b>2.7</b>	0.5
製造業DI	5.1	(1.6)	<b>6.0</b>	4.9
食料品	12.5	(0.0)	<b>4.0</b>	0.0
繊維	△60.0	(△30.0)	<b>△33.3</b>	△11.1
木材木製品	△28.6	(△14.3)	<b>12.5</b>	△12.5
窯業土石	△33.3	(△33.3)	<b>△25.0</b>	△8.3
電気機器	21.1	(10.5)	<b>5.2</b>	0.0
輸送機器	△5.3	(△5.3)	<b>0.0</b>	5.0
金属製品	7.7	(0.0)	<b>14.7</b>	11.7
一般機械	30.8	(23.1)	<b>15.4</b>	15.4
その他	17.7	(13.7)	<b>16.3</b>	11.7
非製造業DI	0.0	(△3.2)	<b>0.0</b>	△3.1
卸売業	1.8	(△1.8)	<b>1.7</b>	△1.7
小売業	3.0	(△3.0)	<b>0.0</b>	△2.8
建設業	1.7	(△1.8)	<b>0.0</b>	△3.5
サービス	△3.9	(△5.2)	<b>△1.4</b>	△4.0

● 図表2-5 設備投資DI推移(18/Ⅱは見通し)



**【18年1～3月期】**

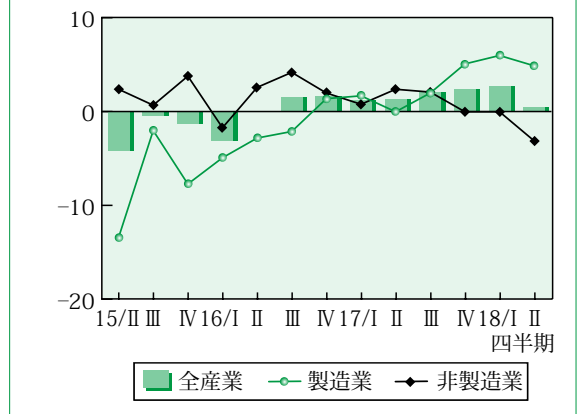
○製造業

その他では、人員不足などから合理化・省力化を目的とした生産機械の買い替えや更新などがみられた。

○非製造業

運輸倉庫を中心としたサービス業で、老朽化対応による車輛の入替や倉庫の新設などがみられた。

● 図表2-6 資金繰りDI推移(18/Ⅱは見通し)



**【18年1～3月期】**

○製造業

木材木製品が「余裕」超に転じたが、電気機器や一般機械では「余裕」が減った。

○非製造業

小売業や建設業では、「余裕」と「窮屈」が均衡した。

## (7)在庫水準

～「適正」が8割を占める～

	17/Ⅳ 実績	18/Ⅰ(1-3月)		18/Ⅱ 見通し
		前回予測	実績	
不足	4.9	(4.9)	6.1	3.6
適正	77.4	(83.4)	78.9	88.5
過剰	17.7	(11.7)	15.0	7.9
全産業DI	△12.8	(△6.8)	△8.9	△4.3

	17/Ⅳ 実績	18/Ⅰ(1-3月)		18/Ⅱ 見通し
		前回予測	実績	
製造業DI	△11.9	(△5.7)	△9.7	△3.7
食料品	△8.3	(△4.1)	△12.0	△4.0
繊維	10.0	(20.0)	△10.0	△20.0
木材木製品	△12.5	(0.0)	△25.0	0.0
窯業土石	△8.3	(0.0)	8.3	8.3
電気機器	△5.5	(△11.1)	△5.3	0.0
輸送機器	△31.6	(△21.1)	5.0	0.0
金属製品	△7.7	(△2.6)	△20.6	△2.9
一般機械	△7.7	(0.0)	0.0	0.0
その他	△17.6	(△9.8)	△13.6	△9.1
非製造業DI	△14.6	(△9.0)	△7.5	△5.3
卸売業	△10.9	(△10.9)	△3.5	△5.1
小売業	△20.6	(△5.9)	△13.8	△5.6
建設業	0.0	(0.0)	0.0	0.0
サービス	0.0	(0.0)	0.0	0.0

注)非製造業のうち、建設業、サービス業は対象外

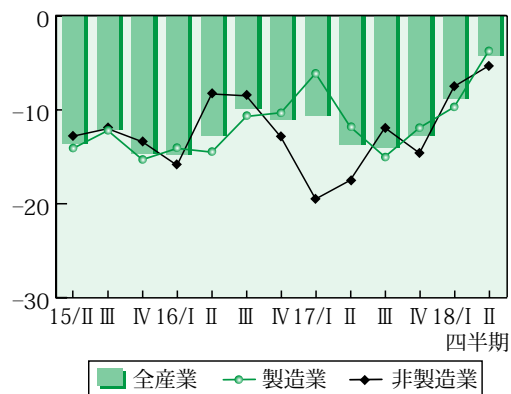
## (8)人員

～全業種が「不足」超～

	17/Ⅳ 実績	18/Ⅰ(1-3月)		18/Ⅱ 見通し
		前回予測	実績	
過剰	3.9	(2.9)	4.6	4.6
適正	51.3	(51.8)	51.6	55.0
不足	44.8	(45.3)	43.8	40.4
全産業DI	△40.9	(△42.4)	△39.2	△35.8

	17/Ⅳ 実績	18/Ⅰ(1-3月)		18/Ⅱ 見通し
		前回予測	実績	
製造業DI	△30.4	(△33.0)	△35.2	△34.7
食料品	△37.5	(△33.3)	△25.0	△29.2
繊維	△20.0	(△20.0)	△22.2	△55.6
木材木製品	△14.3	(△14.3)	△14.3	0.0
窯業土石	△33.3	(△33.3)	△50.0	△41.7
電気機器	△5.3	(△26.3)	△57.9	△47.3
輸送機器	△52.7	(△31.6)	△50.0	△45.0
金属製品	△41.1	(△48.7)	△32.4	△32.4
一般機械	△30.8	(△30.8)	△50.0	△50.0
その他	△23.5	(△29.4)	△23.3	△23.2
非製造業DI	△50.2	(△50.6)	△42.3	△36.7
卸売業	△25.5	(△23.7)	△33.3	△29.8
小売業	△45.5	(△54.5)	△50.0	△44.4
建設業	△66.1	(△67.8)	△45.7	△35.6
サービス	△58.4	(△55.8)	△42.9	△39.0

● 図表2-7 在庫水準DI推移(18/Ⅱは見通し)



### 【18年1～3月期】

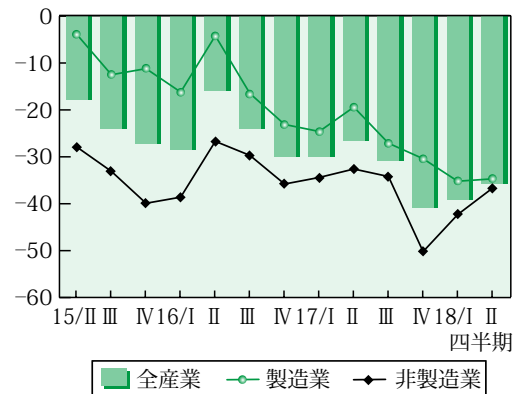
#### ○製造業

繊維が「過剰」超に転じた。一方、輸送機器では在庫が減り小幅ながら「不足」超に転じた。

#### ○非製造業

百貨店・スーパーや乗用車販売店を中心に、小売業で「過剰」超幅が減少した。

● 図表2-8 人員DI推移(18/Ⅱは見通し)



### 【18年1～3月期】

#### ○製造業

電気機器や一般機械などで不足感がより一層強まった。

#### ○非製造業

卸売業や、スーパーを中心とした小売業で「不足」超幅が拡大した。

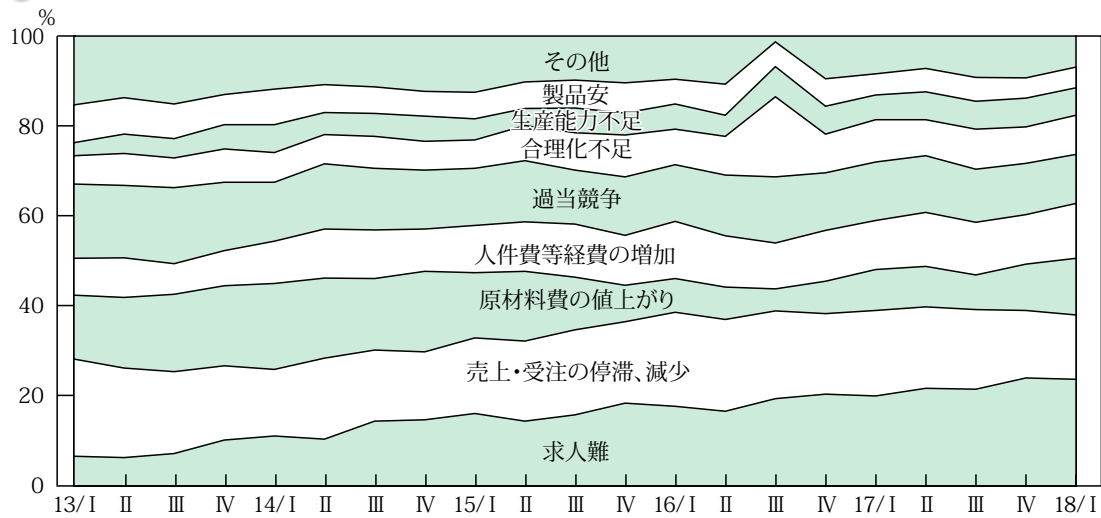
### 3. 経営上の問題点 ～「求人難」が6割に迫る～

図表3-1 経営上の問題点

(単位：%)

項目	17年 10～12月期	18年 1～3月期	前期比増減	回答の多い業種
求人難	55.8	56.3	0.5	輸送機器、小売業、食料品、金属製品
売上・受注の停滞、減少	35.0	34.0	△1.0	木材木製品、窯業土石、繊維
原材料費の値上がり	24.0	29.9	5.9	木材木製品、一般機械、金属製品、繊維
人件費等経費の増加	25.5	28.9	3.4	卸売業、輸送機器、サービス業、小売業
過当競争	26.5	26.0	△0.5	卸売業、建設業、木材木製品、食料品
合理化不足	18.9	20.6	1.7	金属製品、食料品、一般機械、輸送機器
生産能力不足	14.8	14.6	△0.2	一般機械、輸送機器、電気機器

● 図表3-2 経営上の問題点(項目ごとの推移)



注：図表3-2の分母は、本項目（問題点）についての回答数（複数回答）合計。

経営上の問題点をみると、1位「求人難」、2位「売上・受注の停滞、減少」、3位「原材料費の値上がり」の順となった。なお、「原材料費の値上がり」は、前回より増えて3割に迫っている。

回答の多い業種は、「求人難」では輸送機器、小売業、食料品、金属製品など、「売上・受注の停滞、減少」では木材木製品などである。「原材料費の値上がり」では、木材木製品、一般機械、金属製品、繊維などとなった。

項目ごとの推移を長期でみると「求人難」の割合が増えてきている。なお、「原材料費の値上がり」が再び徐々に増えつつある。